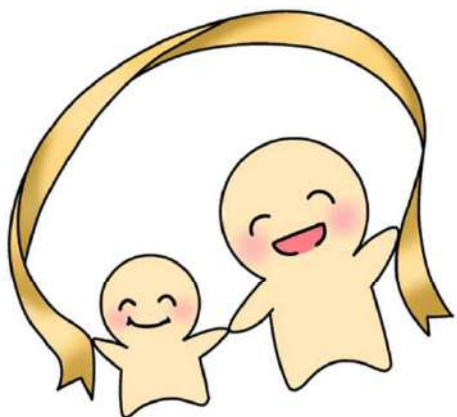




**このレモネードスタンドは
小児がんの子どもたちとその家族
を応援する活動です**





**集まった寄付は
ゴールデンスマイルプロジェクトいしかわ
に寄付されます**



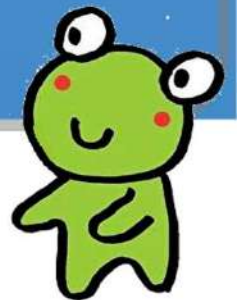
@GOLDENSMILEPROJECT_ISHIKAWA



数字で見る日本と石川県のがん

<u>おおよその人数</u>	日本 Japan	石川県 Ishikawa Prefecture
人口 population	120,000,000人	1,100,000人
がん罹患者/年 Cancer patients/year	990,000人	9,000人
がんによる死亡者/年 Cancer deaths/year	380,000人	3,500人
小児がん罹患者/年 Childhood cancer patients/year	2,000人	20人

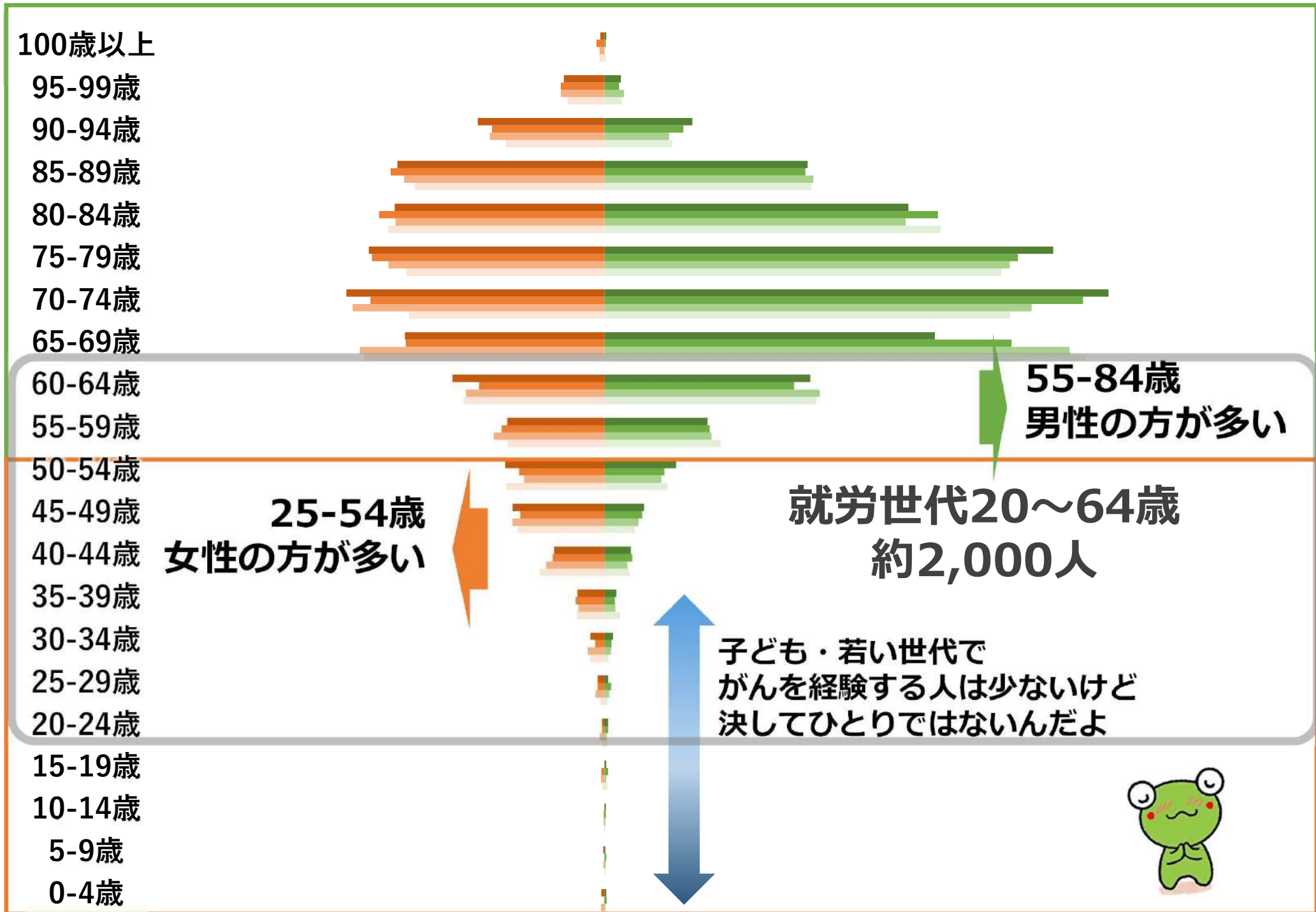
身近なところにも小児がん経験者がいるかもしれないね



石川県でがんと診断された人の数<<数字編>>

女性				性別	男性			
2019年	2018年	2017年	2016年	調査年	2016年	2017年	2018年	2019年
4096	3968	4105	3860	全年齢	5356	5278	5339	5318
9	18	11	11	100歳以上	3	1	3	4
91	98	98	83	95-99歳	39	44	33	37
284	252	257	221	90-94歳	152	145	177	197
464	479	449	425	85-89歳	464	468	450	455
470	505	468	485	80-84歳	753	675	747	681
528	521	484	444	75-79歳	889	908	926	1005
578	524	564	438	70-74歳	909	957	1072	1129
447	445	548	539	65-69歳	1076	1042	912	740
341	281	311	316	60-64歳	474	481	424	460
218	231	248	217	55-59歳	259	239	235	230
222	191	181	220	50-54歳	141	127	134	160
206	189	206	194	45-49歳	67	76	84	88
113	116	131	146	40-44歳	55	51	62	59
61	65	59	62	35-39歳	34	24	23	26
32	21	38	33	30-34歳	9	14	15	18
16	16	20	9	25-29歳	7	10	14	8
6	6	11	5	20-24歳	6	5	8	8
0	7	8	5	15-19歳	7	4	8	4
0	2	2	1	10-14歳	2	2	3	3
3	0	3	1	5-9歳	2	3	4	2
7	1	8	5	0-4歳	8	2	5	4

石川県でがんと診断された人の数 《グラフ編》



第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月28日閣議決定）概要

第1. 全体目標と分野別目標 / 第2. 分野別施策と個別目標

全体目標：「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」

「がん予防」分野の分野別目標

がんを知り、がんを予防すること、がん検診による早期発見・早期治療を促すことで、がん罹患率・がん死亡率の減少を目指す

1. がん予防

- (1) がんの1次予防
 - ①生活習慣について
 - ②感染症対策について
- (2) がんの2次予防（がん検診）
 - ①受診率向上対策について
 - ②がん検診の精度管理等について
 - ③科学的根拠に基づくがん検診の実施について

「がん医療」分野の分野別目標

適切な医療を受けられる体制を充実させることで、がん生存率の向上・がん死亡率の減少・全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

2. がん医療

- (1) がん医療提供体制等
 - ①医療提供体制の均てん化・集約化について
 - ②がんゲノム医療について
 - ③手術療法・放射線療法・薬物療法について
 - ④チーム医療の推進について
 - ⑤がんのリハビリテーションについて
 - ⑥支持療法の推進について
 - ⑦がんと診断された時からの緩和ケアの推進について
 - ⑧妊孕性温存療法について
- (2) 希少がん及び難治性がん対策
- (3) 小児がん及びAYA世代のがん対策
- (4) 高齢者のがん対策
- (5) 新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装

「がんとの共生」分野の分野別目標

がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す

3. がんとの共生

- (1) 相談支援及び情報提供
 - ①相談支援について
 - ②情報提供について
- (2) 社会連携に基づく緩和ケア等のがん対策・患者支援
- (3) がん患者等の社会的な問題への対策（サバイバーシップ支援）
 - ①就労支援について
 - ②アピアランスケアについて
 - ③がん診断後の自殺対策について
 - ④子の他の社会的な問題について
- (4) ライフステージに応じた療養環境への支援
 - ①小児・AYA世代について
 - ②高齢者について

4. これらを支える基盤

- (1) 全ゲノム解析等の新たな技術を含む更なるがん研究の推進
- (2) 人材育成の強化
- (3) がん教育及びがんに関する知識の普及啓発
- (4) がん登録の利活用の推進
- (5) 患者・市民参画の推進
- (6) デジタル化の推進

第3. がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

- 1. 関係者等の連携協力の更なる強化
- 2. 感染症発生・まん延時や災害時等を見据えた対策
- 3. 都道府県による計画の策定
- 4. 国民の努力
- 5. 必要な財政措置の実施と予算の効率化・重点化
- 6. 目標の達成状況の把握
- 7. 基本計画の見直し

がんサロンとは？

自分の経験
「私は～でしたよ」

相手の経験
「あなたは
～なんですね」

がん経験者
家族など
専門職
ボランティア

会話・対話
共感・共有
理解
ロールモデル



ピア

サポート

の

場

仲間で支える

自分にも
できる！

自己効力感

がんサロンとは、同じような経験をした
仲間で支え合うピアサポートの場です。
「ひとりじゃない」と思えることが、
「自分にもできることがある」という
主体的に生きる感覚につながります。

ひとりじゃ
ない！

孤独の緩和

がんサロンつどい場はなうめ

石川県のがん対策推進のために設置されたがんサロン。
がん患者さんやご家族などにご利用いただけます。

- 交流：がんを経験した人やご家族でお話したり、気分転換にも。
- プログラム：交流・セルフケア・医療・楽しみなど目的に応じてご参加いただけます。
- 相談：考えがまとまってなくても大丈夫。まずは、起こっていることや気持ちの整理から。



小児がんに関するプログラム

くるみカフェ（1回/月）



パパ&ママ

→近況報告や情報交換（ピアサポート）

子ども（本人、きょうだい）

→学生ボランティアが企画したプランで楽しんでいます。

AYA世代に関するプログラム

青年部（年4回）



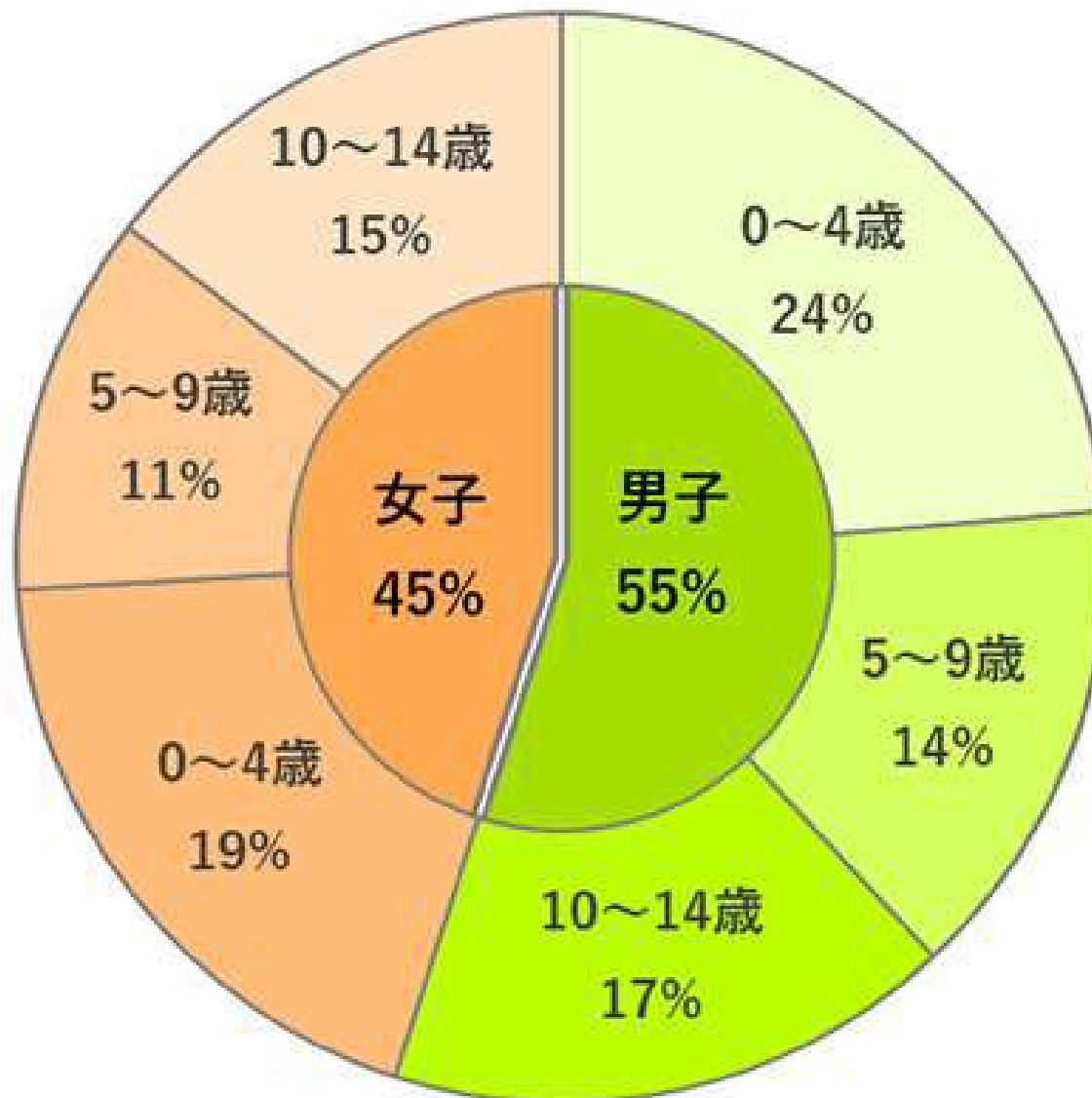
AYA世代

→Adolescent and Young Adult（思春期・若年成人）の略。
15歳から30代を指します。

青年部には小児がんを経験した方も参加しています。

小児がんと診断された子どもの数

わが国では、0～14歳の子どものうち、1年間に約2,500人が小児がんと診断されています。男子は女子に比べて割合がやや高く、年齢階層別では0～4歳の割合が高い傾向にあります。



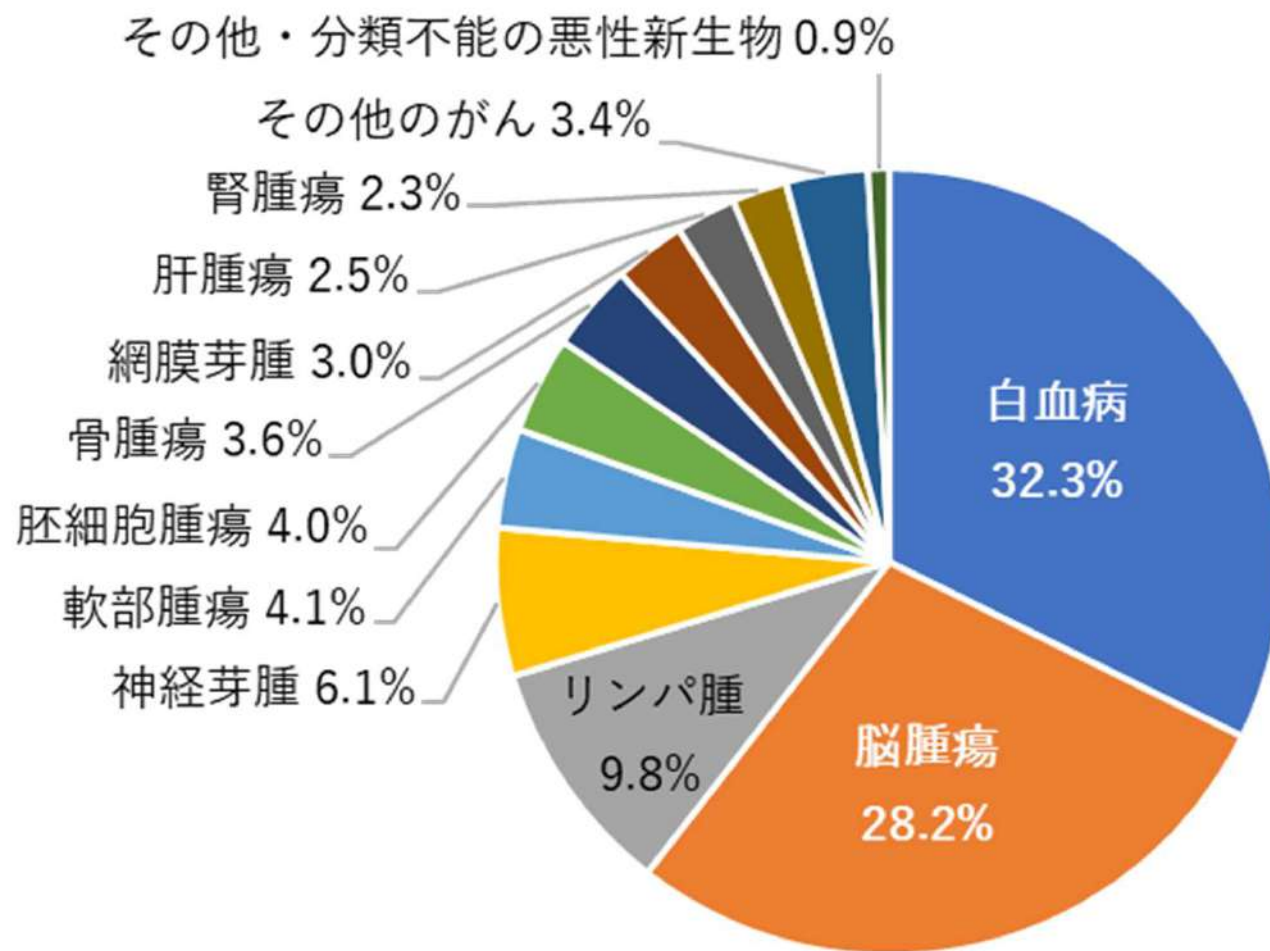
全国がん登録（2016～2018年）より作成

（国際小児がん分類 ICCC-3に基づく0～14歳の7,531例【人】のデータ）

出典 Kayo Nakata, et al. Cancer incidence and type of treatment hospital among children, adolescents, and young adults in Japan, 2016–2018. Cancer Science. 2023; 114(9): 3770-3782.

小児がんの種類

小児がんの種類は、白血病や脳腫瘍が多く、他にリンパ腫、神経芽腫、軟部腫瘍、胚はい細胞腫瘍などがあります。大人のがんとは大きく割合が異なり、また大人ではほとんど見られないがんもあります。種類が多く、希少がん（=人口10万人あたり6例未満）が多いのが特徴です。



聞いたことない病気が
たくさん



全国がん登録（2016～2018年）より作成

（国際小児がん分類ICCC-3に基づく0～14歳の7,531例【人】のデータ）

出典 Kayo Nakata, et al. Cancer incidence and type of treatment hospital among children, adolescents, and young adults in Japan, 2016–2018. Cancer Science. 2023; 114(9): 3770-3782.

小児がんは治る確率の高いがん

小児がんは早期発見が難しく、がんの増殖も速いのですが、成人のがんに比べて化学療法や放射線療法に対する効果が極めて高いのも特徴です。

	調査対象数（人）	相対5年生存率（%）
白血病	946	88.0
リンパ腫	203	90.7
脳腫瘍	698	74.6
神経芽腫	163	78.6
網膜芽腫	105	95.4
腎腫瘍	50	93.8
肝腫瘍	69	87.1
骨腫瘍	136	70.5
軟部腫瘍	151	79.3
胚細胞腫瘍	199	96.6

大人のがん
5年生存率は6割越え
くらい。
小児がんはさらに高いね！



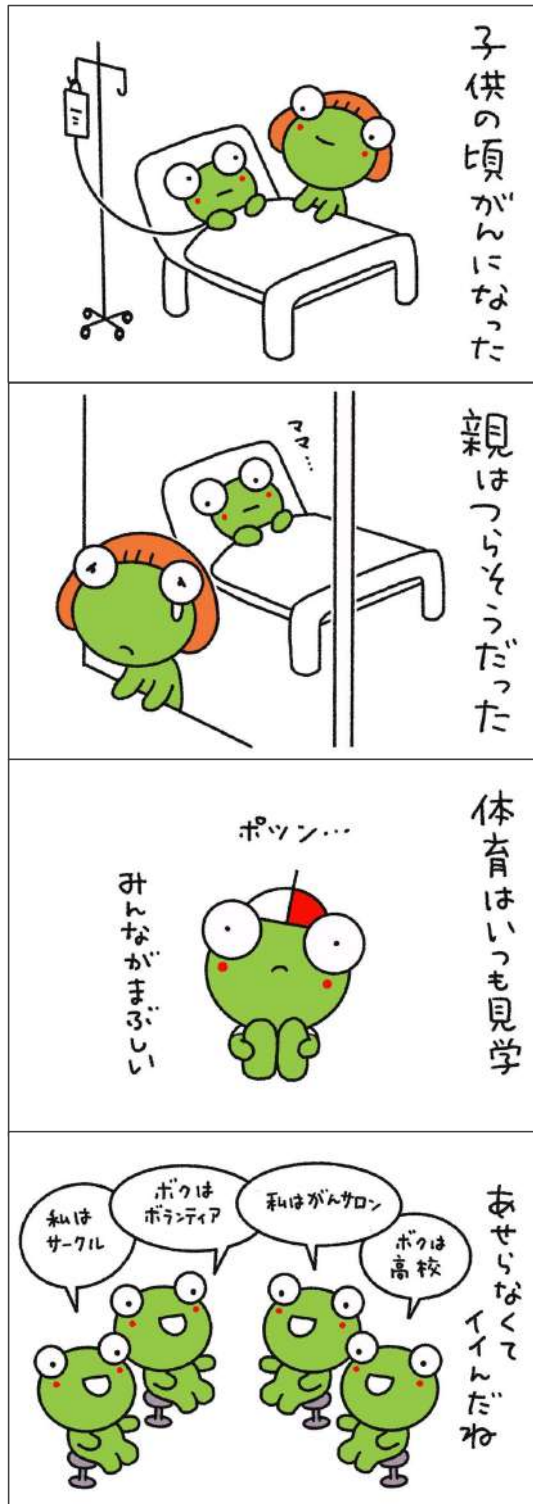
部位や種類、進行度によっても違いますが、ご参考に。

地域のみんなで

小児がん経験者をながーい目で応援しよう！

小児がんの治療は、長い入院が必要な場合もあり、治療が終わった後も通院が必要です。さらに治療が終わって長い時間が経過して現れる副作用や、成長・発達への影響に対応するために長期にわたるフォローアップが行われます。医療だけでなく、学校、職場、地域全体で応援していくことが大切です。





がんから「病」と生きるを考える

小児がん 居場所はちょっとずつみつける

赤ちゃんや子どもも、まれにがんになることがあります(7500人にひとり)小児がんは早期発見が難しく、がんの増殖も速いのですが、大人のがんに比べて化学療法や放射線療法に対する効果が極めて高いのも特徴です。最近では治療効果がぐんと上がってがんの種類によっては7〜9割が治るようになったというデータもあります。そのため、成長に合わせて長期に渡って丁寧にフォローする必要もでてきました。

がんを経験した子どもたちは、自身も周りとの差に戸惑いながらも少しずつ自分の居場所をみつけて成長していくようです。

参考) 国立がん研究センターがん情報サービス小児がんの患者数(がん統計)

はなうめ利用者さんの声
～小児がん～



- ・ 治療中のことは同室の友だちとゲームした楽しい事しか覚えてない
- ・ 親の方がたいへんだなあと思っていた
- ・ 学校ではなかなかみんなについていけなかったけど、少しずついろんなコミュニティを持つようになって自分の居場所ができたなら、そんな気持ちも和らいでいった。
- ・ 社会に出た時、みんなと同じようにできないことも多かったが、みんなが動いているときは、小さなことでもいいから、自分ができることを一緒にするようにしていた。それだけでも同僚と仲間になっていけた気がする。



つながりポイント
～小児がん～

- はなうめの場合
- ・ 小児がん経験者と家族の会くろみカフェがあります。
 - ・ 小児がんを経験した家族と学生サークル小梅が一緒に作ったサポートbookもあります。
 - ・ 小児がんを経験して成長した人が、はなうめ青年部に参加しています。
(小児がんではなく20〜30代でがんを経験したAYA世代の人も参加しています)



くろみカフェ
(はなうめ)



小児がんサポートbook
(はなうめ)



青年部
(はなうめ)